

大湾区情報 No. 41

グレーターベイエリア情報 発行：2022年8月2日



【今号のトピックス】

以下のリンクをクリックすると各記事のトップに移動します。

[【香港の金融ビジネス、中国の対外開放の新たな局面に大きく寄与】](#)

[【深圳市、国際的職業資格を職称として認めることを試験的に実施 第一弾は25の職種】](#)

[【香港－深圳の「クロスリバー」研究開発 次なる「DJI」の伝説へ】](#)

[【香港の金融ビジネス、中国の対外開放の新たな局面に大きく寄与】](#)



長い年月に渡り、中国大陸をバックにして、香港は東洋と西洋を渡す架け橋となってきました。多くの優秀な人材、整ったインフラ、国際基準に沿った規制機

関、自由な資金の流れ、オープンで透明性の高い国際化マーケットにより、香港金融は中国の発展とともに成長してきました。香港は、最新の世界金融センター指数（GFCI）で再び第3位にランクされました。

中国の対外開放をさらに拡大し、国内外の双循環の新しい発展パターンを構築する過程において、香港は引き続き中国と海外との「窓口」の役割を果たし、人民元国際化およびグリーン金融方面において独自の役割を担っていくでしょう。

困難を乗り越えてきた「たくましさ」

中国に返還されて25年、香港は国際金融危機の浮き沈みを経験しましたが、国際金融センターとしての地位は揺るがず、市場の「たくましさ」を強く発揮しています。

香港の金融セクターが活況であることは以下のデータが示しています。返還から25年の香港の銀行セクターの資産額は8.7兆香港ドルから27兆香港ドル、銀行預金は1.6兆香港ドルから7.5兆香港ドルと3.7倍以上、外貨準備資産は800億米ドル超から4,600億米ドル超、株式市場の時価総額は4兆6千億香港ドルから約38兆香港ドルへ上昇しました。

国際的な金融センターである香港は、中国本土の投資家だけでなく、海外の投資家にも注目しています。香港は中国本土の企業にとって好ましい国際金融センターであると同時に、国際資産管理センター、リスク管理センター、世界最大のオフショア人民元市場でもあり、香港の人民元預金は2022年5月末には8,504億人民元に達しています。

また、香港はニューエコノミー企業にとって主要な融資拠点となっています。香港市場のIPO資金調達額全体に占めるニューエコノミー企業からの調達割合は、2019年の49%から2020年には64%、2021年には87%と、年々上昇しています。香港はすでにアジア最大、世界第2位のバイオテクノロジー企業の調節セ

ンターとなっています。2021年には34社のバイオテクノロジー・ヘルスケア企業が香港に上場し、上場件数で世界第1位、調達総額で世界第2位となります。

中国本土との金融市場の相互接続強化

2017年には、中国本土と香港の債券市場を相互接続する「ボンドコネクト（債券通）」が正式稼働し、中国の金融市場の対外開放のマイルストーンとなりました。

香港の返還25周年を機に、香港・中国本土金利スワップ市場相互接続（スワップコネクト）が正式にスタートしました。これは、香港と中国本土の金融市場インフラの接続を通じて、国内外投資家が両地の金融デリバティブ市場に参加できる仕組みで、投資家の金利リスク管理ニーズを満たすことにつながります。

香港は、第14次5ヵ年計画において、中国本土との金融市場の相互接続をさらに拡大し、国際資産管理センターおよびリスク管理センターとしての機能を強化することが提案されています。近年、香港と中国本土の金融市場の相互接続メカニズムが徐々に成熟し、国内外の投資家に利便性の高い環境を提供しています。香港証券取引所の情報によると、2021年の上海－香港ストック・コネクト、深圳－香港ストック・コネクトにおける1日の平均取引金額はそれぞれ200億7,900万香港ドル、216億3,000万香港ドルであり、香港の資本市場を強力にサポートする存在となっています。

「大湾区発展計画概要」では、香港、マカオ、広州、深圳の4つの中心都市を地域開発の中核的なエンジンとして活用することが提案されています。大湾区における様々な要素の円滑な流れと最適な配分を促進し、広東省・香港・マカオ間の市場接続レベルをさらに高めると言及しています。

人民元の国際化の推進においては、香港の金融市場が重要な使命を負っています。この点において、香港は最大のオフショア人民元資金プールおよび最大のオ

フショア人民元為替市場を持つグローバルなオフショア人民元センターとして、人民元の国際的な利用促進にさらに貢献できる、と香港金融管理局（HKMA）総裁ユー・ワイマン（余偉文）氏は考えています。HKMA は、人民元金融インフラがオフショア市場の長期的な発展を支える十分な「キャパシティ」を確保するため、CMU システム（債券中央決済システム）をアップグレードし、アジアをリードする中央証券信託プラットフォームとして発展させるよう努力します。

グリーン金融、中国本土のグリーン経済への移行を支援

グリーン金融とは、環境保護、省エネルギー、クリーンエネルギー、グリーン交通、グリーン建築の分野におけるプロジェクト投融资、プロジェクト運営、リスク管理などの金融サービスを指します。近年、中国の「カーボンピーク」「カーボンニュートラル」目標の導入に伴い、金融市場を使って国内のグリーン経済の発展をいかにサポートするかが、香港の金融セクターにとって重要な命題になっています。

香港特區政府の継続的な推進により、香港のグリーンボンド市場は好調に推移し、グリーンローン市場も新たな展開を見せています。2021年には、香港で手配・発行されたグリーンおよびサステナブル債務融資額は、前年比4倍増の570億米ドルとなり、過去最高となりました。このうち、国際債券は合計313億米ドルとアジア市場の3分の1を占め、手配発行額は1位となりました。

2019年5月に初のグリーンボンドを発行して以来、香港特區政府は定期的にグリーンボンドを発行し続けており、これまでに機関投資家と個人投資家の両方を対象に、複数の通貨と期間により90億米ドル相当以上のグリーンボンドを発行し、地域の潜在的発行体に対して重要なベンチマークを提供しています。2021年5月、香港は新たに「グリーン・サステナブル金融財政援助スキーム」を立ち上げ、対象となる債券発行人や借入人に対し、債券発行や外部審査サービスなどに掛かる費用を援助しています。今年5月、香港特區政府は、香港の持続可能な

発展の成果を投資を通じて一般市民が参加・共有できるようにするため、第1回グリーン・リテール・ボンドを発行し、一般市民から好評を得ています。

2020年9月、大湾区の金融機関やグリーン企業を発起人とする「大湾区 グリーンファイナンス・アライアンス」が発足しました。中国大陸におけるグリーンファイナンスの巨大な需要と相互接続の仕組みは、香港の架け橋としての役割を誘発し、香港がグリーンファイナンスを発展させるための新たな機会を提供することになるでしょう。

2021年10月、深圳市人民政府は香港で、39億元の人民元グリーンボンドを含む総額50億元のオフショア人民元建て地方債を発行しました。香港で中国本土の地方政府がオフショアの人民元建て国債が発行されるのはこれが初めてです。これにより、中国本土の多くの組織が香港でさまざまなグリーン製品やサステナブル製品を発行することを後押しすることになるでしょう。

香港金融管理局によると、将来的には、世界の炭素・グリーン金融市場の機会をつかみ、香港の金融セクターが国際的なトレンドに先行し、さらに多様な発展を遂げることで、香港は中国がグリーン経済への移行という目標を達成できるように支援していきます。

【深圳市、国際的職業資格を職称として認めることを試験的に実施 第一弾は
25 の職種】



深圳市は、大湾区の国際職業資格と国内職称(*)制度を効果的に接続する「第一歩」を踏み出し、国際職業資格公認目録が打ち出されました。このたび、深圳市人力資源保障局は「深圳市国際職業資格認定目録（2022）」（以下、「目録」）を発表し、国際職業資格を職称として試験的に認定し、「目録」上の国際職業資格を有する専門家（国籍、戸籍を問わず）はエンジニア類の対応する職称を取得したとみなされ、関連規定に従ってより高いレベルの職称を名乗ることができるようになりました。

(*職称：中国における専門技術を要する職業資格)

「目録」には、主にエンジニアリングとテクノロジーの分野で、グリーンビルディング、人工知能、測量設計など、米国、英国、オーストラリア、香港、マカオなどの国・地域をカバーする 25 の国際職業資格が掲載されており、「制度の

ボーナス」によりさらに国際的人材をさらに呼び込むことができるようになります。

包括的改革試行における認可事項リストの最初の1つとして、深圳市は過去2年間において、海外専門家のための高度な円滑化システムの実施で大きな進展を遂げました。2022年初めには「深圳市における海外職業専門資格認可リスト」

(以下「リスト」)が公布され、「リスト」に掲載された海外職業資格を持つ専門家は、関連する実施措置に従って専門サービスを提供するための申請・登録を行った後に、深圳でサービスを提供できるようになりました。第一弾は、税理士、登録建築士、登録都市・農村設計家、医師、船員、ツアーガイドなど20の専門資格を含む、主要6分野を対象としています。これまで400人以上の海外の専門家が深圳で開業、業務提供を行っています。

深圳市人力資源及社会保障局の担当者は、先に発表された「リスト」は、試験、届け出の直接免除、試験に代わる研修の実施、専門科目の試験免除などにより、開業、業務提供への障壁を取り除き、難題を解決することに焦点を当てたと紹介しました。今回発表された「目録」は、直接国際専門人材のために設けた職称審査における「グリーンゲート（特別優先ルート）」であるといえます。これにより、例えば、香港での登録専門測量士（工業測量グループ）を取得し、一定の学歴とその他の条件を満たした国際人材はアシスタント・エンジニア（副エンジニア）の職称からスタートし段階的に審査申請するのではなく、直接アシスタント・シニア・エンジニア（副高級エンジニア）の肩書きで審査申請できるため、国際人材の深圳での発展のルートをスムーズにすることができます。

深圳市金融安定発展研究院の院長補佐である李凱博士は「「目録」の導入は、深圳市が人材を重視し、それを積極的に受け入れているという重要なシグナルを世界に発信するものです。中でも、深圳・香港・マカオのフィンテック・プロフェッショナル2級認定証が「目録」に含まれていることは、深圳・香港・マカオの人材評価基準を統合する条件を整え、フィンテック人材育成制度と認定基準を職称制度に連結し、三地の人材の交流と協力を深め、香港・マカオのフィンテッ

ク人材の中国本土の発展への統合を促進し、大湾区の国際競争力あるフィンテック産業システムを構築し、グローバルな金融科技センターを建設し、実体経済の質の高い発展を支援することは大きな意義があります」と述べています。

深圳市人力資源保障局は、職称審査プロセスを最適化することにより、積極的に新たな職称を増やすなど、今後も「目録」の調整を推し進め、国際専門家がイノベーションと起業のために深圳市に来ることをと支援します。

【香港－深圳の「クロスリバー」研究開発 次なる「DJI」の伝説へ】



香港中文大学香港・深圳イノベーション研究院は、1年半前に河套港深科技創新協力区(以下、「協力区」)に入居して以来、中国初のオープン式医療用ロボット実験基地の構築に成功し、低侵襲腹腔鏡手術などの医療ロボットを開発、その一部は臨床試験に入っています。

一方では、世界的に有名な高等教育や基礎研究の成果を有しており、もう一方では、世界でも類を見ない科学技術イノベーションの産業クラスターである香港

と深圳は、科学技術イノベーションの分野で補完し合っており、深圳と香港の接点に位置するこのエリアは、自然にそれぞれの強みを融合させる場所となっており、「基礎研究+産業化」の発展の道を模索しています。この小さな場所においても、香港、深圳の協力があれば大いに力を発揮できます。無数の「DJI」がここで産声をあげることが期待されています。

「天を支え、大地にも立つ」

「アイデアさえあれば、ここですぐに実現できる」、深圳のスピードについて、香港科技大学港深創新協力研究院の高凌雲エグゼクティブディレクターは、こう賞賛しています。最も完全なサプライチェーンがここにあり、スピードと適合度が非常に高い、と語りました。

香港の大学として初めて協力区の深圳園区に入居した香港科技大学（以下、「HKUST」）は、2019年、協力区に「香港・深圳イノベーション協力研究院」を設立しました。香港の大学の有利な資源と深圳の良好な産業環境、科学イノベーションの土壌を組み合わせるために建設されたブルー・オーシャン（未開拓市場）インキュベーションポート、科学研究実験室群、および生涯教育のための学部を設置しました。そのうち、インキュベートされた19の企業は、すべてHKUSTの教授や卒業生、香港の青年によって起業されています。

「香港の大学による科学研究+深圳のイノベーション産業」の組み合わせは、この協力区では珍しい例ではありません。その背景には、深圳と香港の科学技術イノベーションの優位性を重ね合わせ、結合させたことがあります。

中国（深圳）総合開発研究院の郭万達常務副院長は、香港の5つの大学が世界のトップ100に入り、そのうち4大学がトップ50にランクインしていると紹介しました。ランキングとは別に、香港の大学は人工知能、情報技術、生命科学、新素材、エネルギーなどの基礎研究分野で明らかに優位に立っており、多くの国家重点実験室や技術センターを有します。同時に、香港の大学はより国際的で、多くの国際的な才能を引きつけており、香港の人事科学研究システムや規制基準もより国際的なものとなっています。一方、深圳は、伝統的な製造業からハイエンドな製造業まであらゆる分野をカバーする強力な製造業を有し、科学技術イノ

ベーション企業が多く、企業を中心とした研究開発投資の GDP に占める割合が 5%を超えるなど、イノベーションエコロジーが確立されています。

「香港には深圳にない独自性があり、深圳は香港にない独自性があり、この 2 つの独自性が合わさった地域は世界でもなかなかありません」と郭万達氏は述べました。

「研究院に深圳と香港の二大「ブランド」が積み重なっており、ここでプロジェクトを行うことにより「天を支え、大地にも立つ」（全世界を背負って立つ）ことができます」と香港城市大学深圳福田研究院院長の陳福栄氏も述べています。

研究室からマーケットへのイノベーション・エコシステム

2017 年、深圳と香港は、「港深科技創新協力区」と「一区二園」のレイアウトを明確にしました。2019 年には「大湾区開発計画概要」が発表され、協力区は大湾区で唯一、科学技術イノベーションに特化した特別なプラットフォームとなっています。2021 年、この協力区は国家第 14 次 5 年計画の「2 つの回廊と 2 つの点」の枠組みの重要なポイントとなります。

この戦略的位置付けの変化により、協力区が科学技術イノベーションにおいて「ゼロの突破」から「クラスター発展」へと移行することができました。現在、協力区の深圳園区では、香港大学、香港科技大学、香港中文大学、香港城市大学、香港理工大学の香港の 5 大学から 10 件の質の高い科学研究プロジェクトが導入されています。「量子バレー」、「ベイエリア・コア・バレー」、エネルギー科学技術、ビッグデータ・人工知能、生物医学、香港の大学プロジェクトなど、140 以上のハイエンド科学研究プロジェクトが協力区で実質的に推進・展開されており、クラスターの発展を実現しています。

生物医学分野では、2021 年末までに協力区に設立された国家薬品监督管理局の医薬品審査検査大湾区センターが、214 品種の審査の受け入れに関する実務研修を終え、大湾区内における 3 つの新薬マーケット投入補助審査レポートを完了し、医療器械技術審査検査大湾区センターにおいては審査レポート 888 件を発行、4,704 件の申請を処理しました。また、世界有数の「AI+医薬品研究開発」

企業である晶泰科技 (XtalPi)、中国で唯一 7T 人体全身 MRI 装置を自社開発したユナイテッド・イメージング (聯影医療/ United Imaging) も協力区に入居しました。

香港・深圳科学技術イノベーション開放協力先進区、国際先進イノベーションルールの試験区、大湾区のパイロット、実用化クラスター、は協力区の「三大ポジション」であり、「基礎研究+技術突破+成果の産業化+科学技術金融+人材支援」というイノベーションのエコロジーチェーン全体が、この協力区で徐々に形作られ、科学技術の成果が大学や研究所からマーケットへと向かって進んでいます。

【参考資料】

- [・香港の金融ビジネス、中国の対外開放の新たな局面に大きく寄与](#)
- [・深圳市、国際的職業資格を職称として認めることを試験的に実施 第一弾は 25 の職種](#)
- [・香港－深圳の「クロスリバー」研究開発 次なる「DJI」の伝説へ](#)